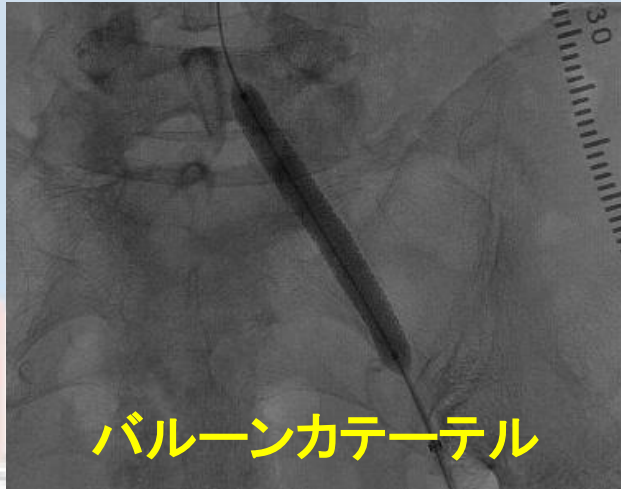


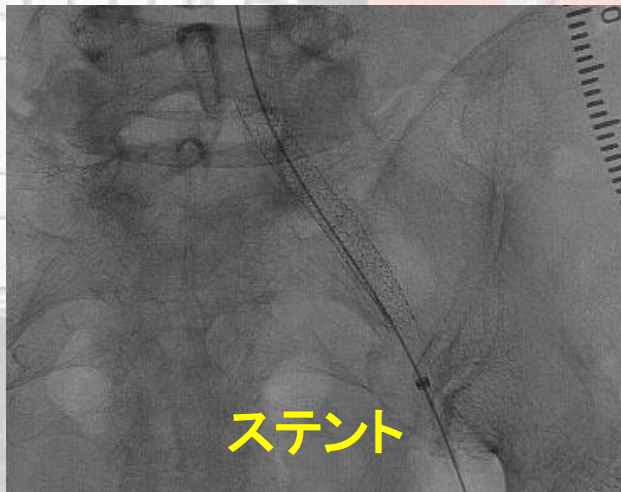
血管拡張術



血管拡張術とは？



血管が狭くなっている所や閉塞している所をバルーンカテーテル(カテーテルの先に風船がついたもの)で広げる治療法で、必要に応じてステント(金属製のメッシュの管)を留置する場合があります。



血管が狭くなる主な原因は血管の動脈硬化です。

動脈硬化とは？

動脈硬化とは、血管にコレステロールなどがたまり、血管が狭くなったり(狭窄)、血管が詰まったり(閉塞)する状態をいいます。動脈硬化は喫煙、糖尿病、高血圧、高脂血症などのいわゆる生活習慣病があると、さらに起こりやすくなります。



動脈硬化が進行すると？

動脈硬化が進行すると、閉塞性動脈硬化症となります。

閉塞性動脈硬化症は、手や足の血管の動脈硬化により、狭窄や閉塞を引き起こして、血液の流れが悪くなり、手先や足先へ栄養や酸素を十分に送り届けることができなくなる病気で、手足にさまざまな障害が現れます。



閉塞しかけた動脈



閉塞性動脈硬化症を診断する検査

①視診

寝て足を上げて足の色の変化で血の巡りを調べます

②触診

実際に足に触れて脈拍を調べます

③上下肢血圧測定

腕と足の血圧の差を調べます

④CT・MRI

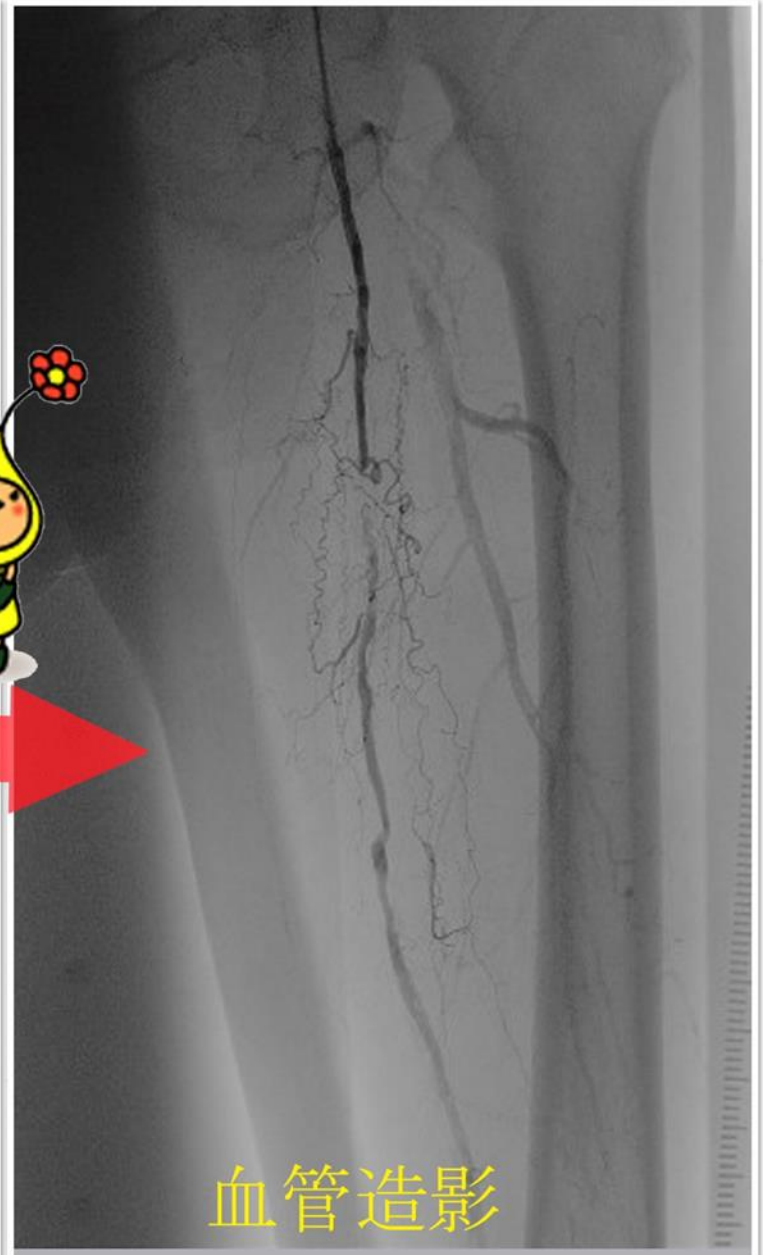
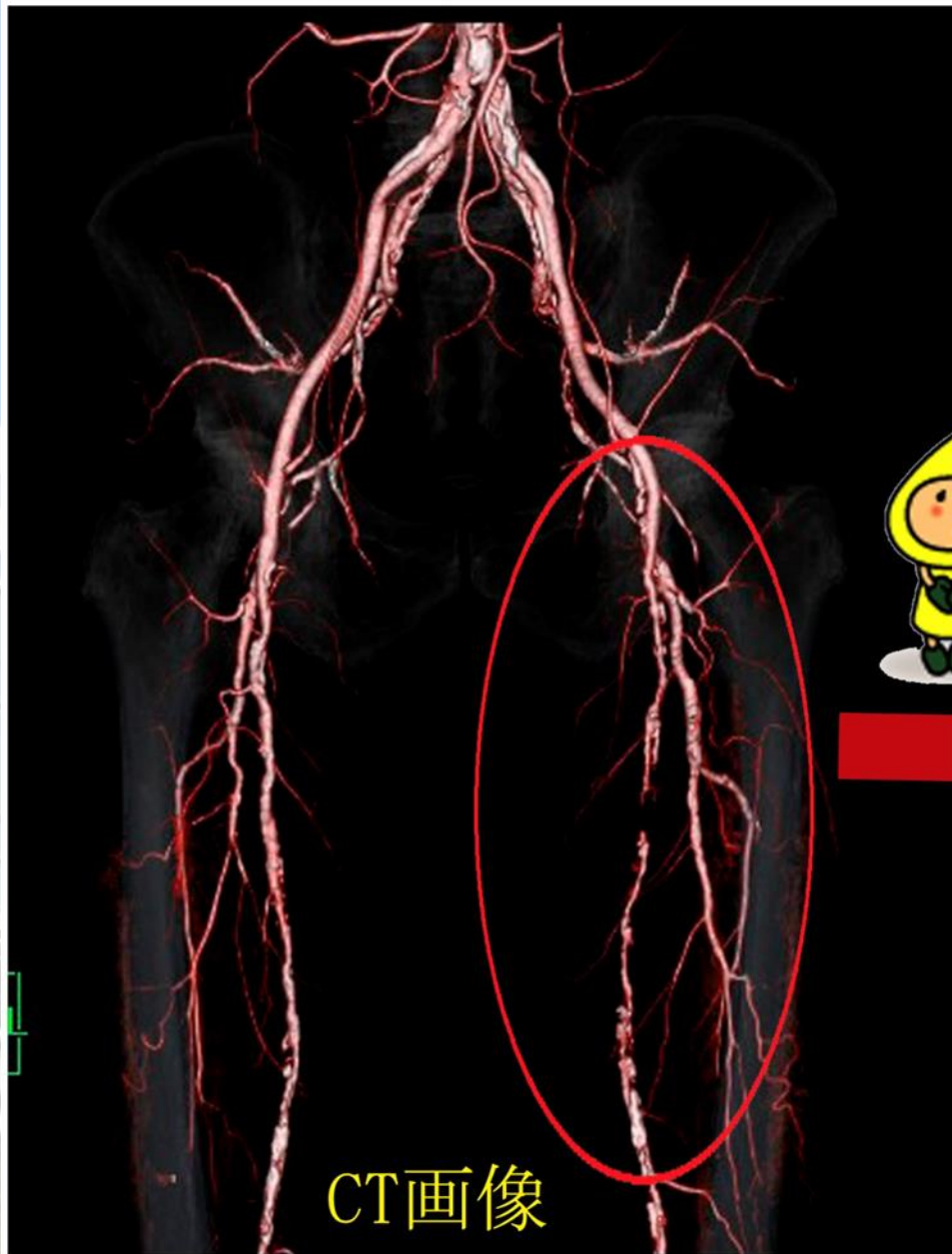
⑤超音波検査

⑥動脈造影検査

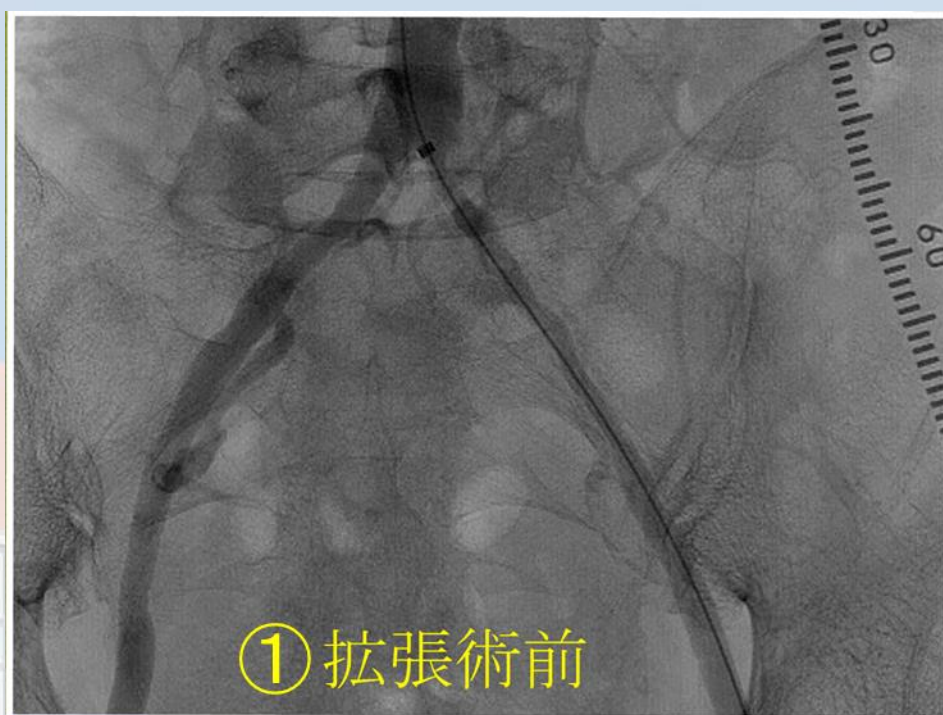
血管に造影剤を流して調べます

などで診断できます。

CTと血管造影検査の比較



閉塞性動脈硬化症の治療法



足の付け根を消毒・麻酔しカテーテルを挿入します。
造影剤というお薬を入れながら血管を造影し狭窄部位を確認します。
狭窄部位が確認できたら、風船の付いたカテーテル(直径2mm程度の管)で拡張させます。

閉塞性動脈硬化症の治療法

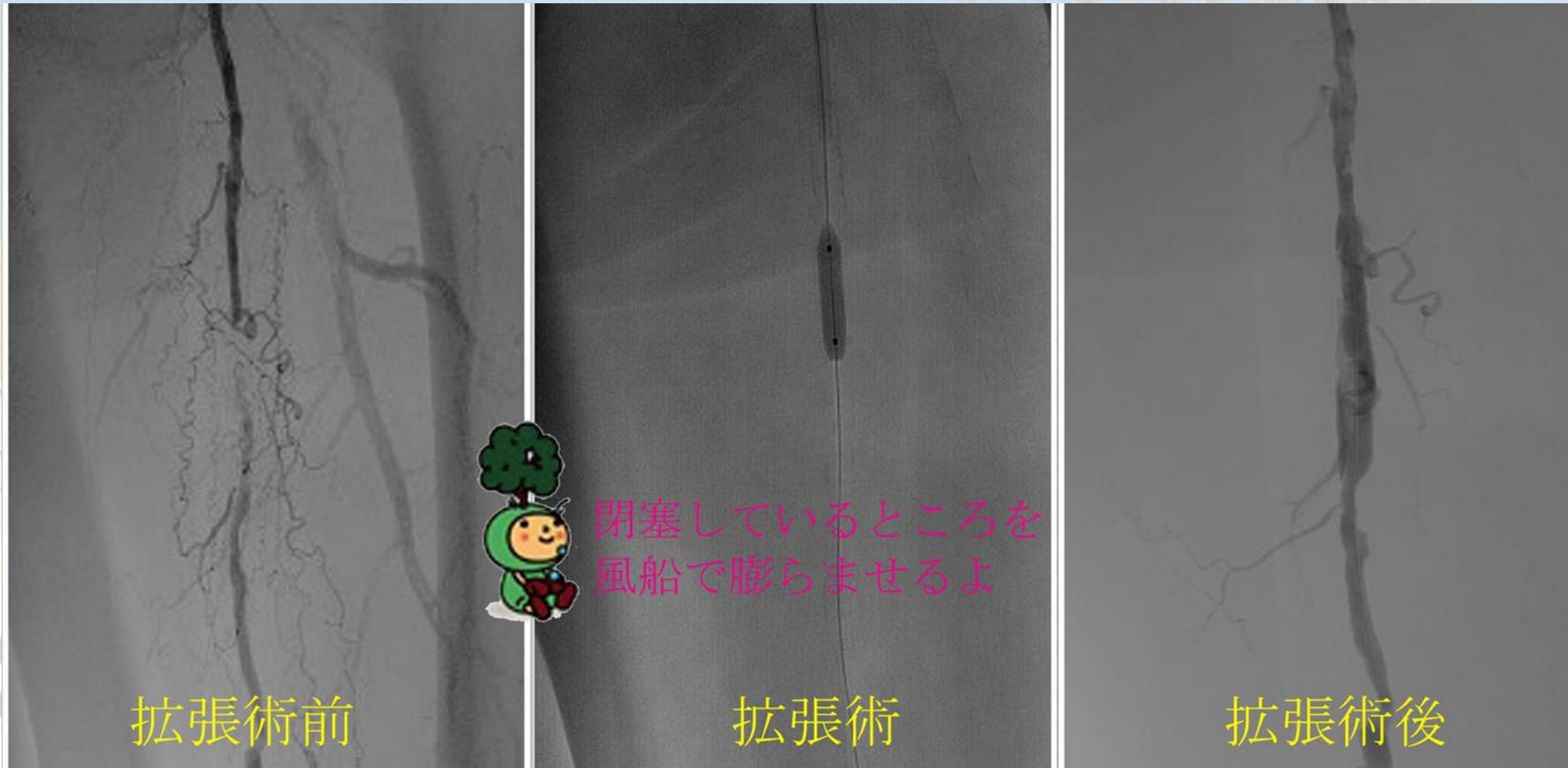


③ ステント留置

④ 拡張術後

必要に応じてステントという金属メッシュの管を留置します。また、血栓(血の固まり)によって閉塞した場合はその血栓を取り除いたり、血栓を溶かす薬を注入して治療します。

血管拡張術の効果



拡張術前と術後で血管が狭窄していたところに血液が流れています。

血管拡張術の合併症

①皮下血腫

検査終了後には圧迫止血をしますが、その後出血して皮下血腫ができる場合があります。少量であれば経過観察をします。

②疼痛

血管を拡張させるときに痛みを感じる事があります。

③血管損傷

ごく稀にカテーテルで血管を傷つけてしまう場合があります。重篤なものは0.1%以下の確率です。

④再狭窄

治療後にまた血管が狭くなる場合があります。ステントを入れる事で血管径を維持することができます。